

2024年度 宮城県公立高校入試 国語・資料読み取り作文

# 資料読み取り作文の考え方

— 構造を見抜いて書く —



**手元に、2024年度 宮城県公立高校入試  
国語の過去問題を用意してください。**

今日はこの資料問題を使って、「どう考え、どう書くか」を整理します。※このあと解説も行います。

# この問題の本質



## 表面的な作業

グラフを読む問題に見える



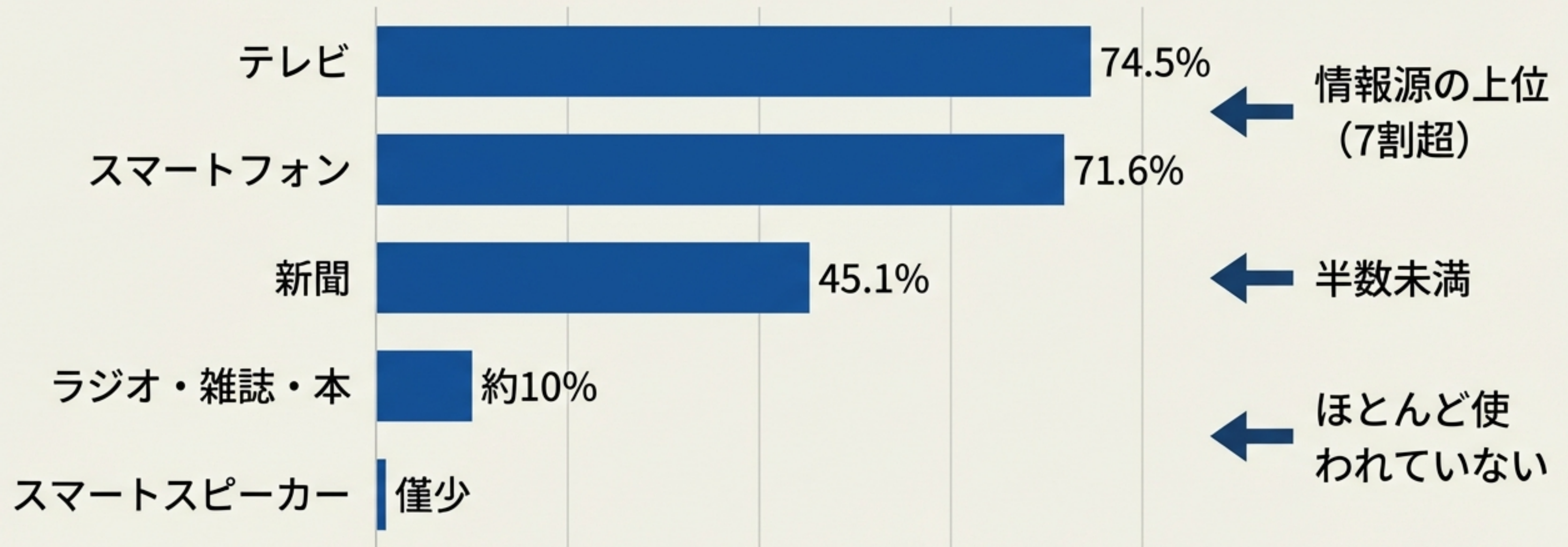
## 本質

作文（思考力・構造理解）

正解は一つではない。でも、  
「評価されやすい考え方」はある。

# まずグラフの要点整理（読み取り）

## 作文に使えるような事実



**「デジタル化が進んでいるが、テレビの影響力は依然として大きい」**

このグラフから、毎日の生活に必要な情報はテレビやスマートフォンから得ている人が多いことが分かる。特にテレビは最も高く、デジタル化が進む中も影響力が大きい。一方で、新聞や本などの利用は減少しており、情報の得方が変化していると感じた。今後は、情報の速さだけでなく、内容の正確さを意識して情報源を選ぶことが大切だと思う。

個別の点ではなく、新旧メディアで「グループ化」して論じる。

【グループA】  
昔からあるメディア（旧）

- ・テレビ
- ・新聞
- ・ラジオ

【グループB】  
新しいメディア（新）

- ・スマートフォン・携帯電話
- ・パソコン
- ・タブレット

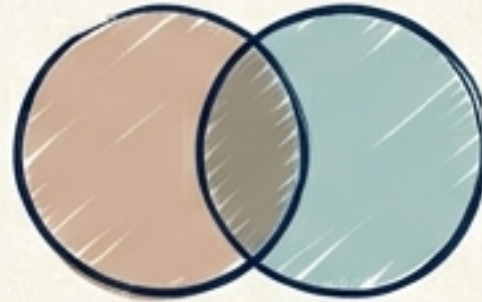
点ではなく、かたまりで見る。

## 作文が書ける人は、先に構造を一言で言える。

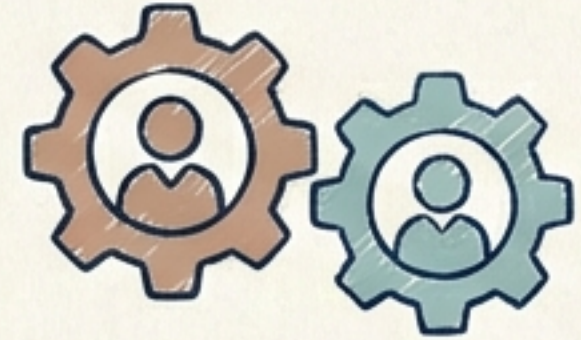
1. 対比



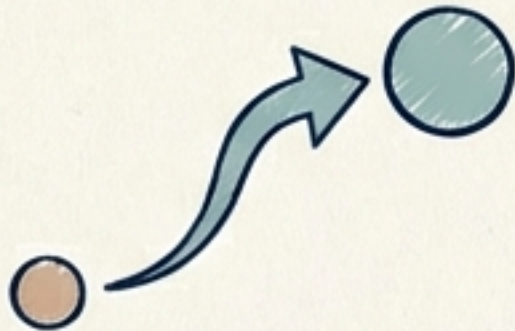
2. 共存



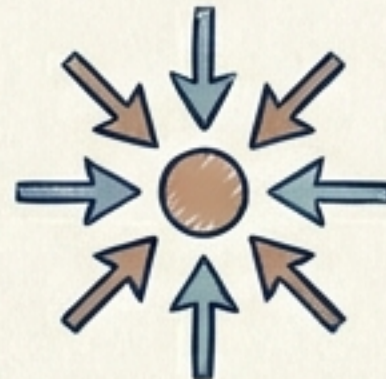
3. 役割分担



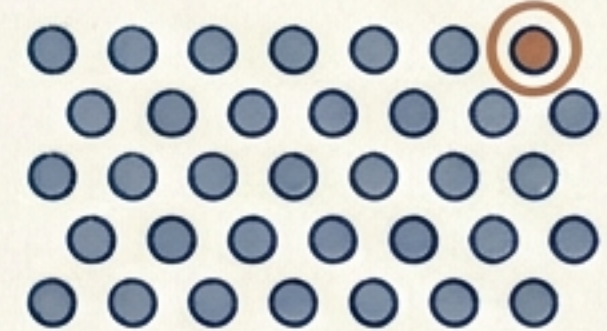
4. 変化



5. 集中と分散



6. 例外・少数



# 構造①：【対比】

新しいメディアと昔からあるメディアの違い。



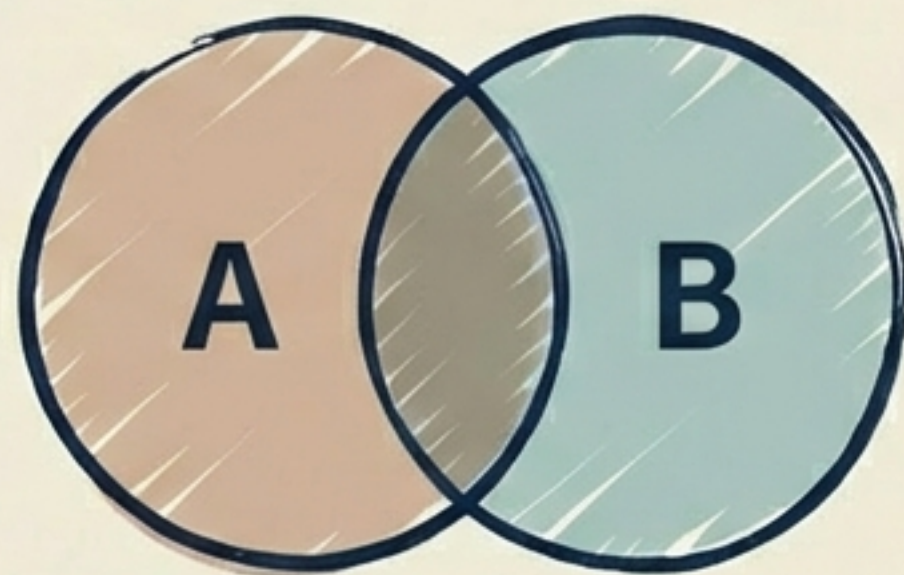
AとBを比べる、  
最も基本で安定した構造。

## 例文

新しいメディアであるスマートフォン  
の利用が高い一方で、昔からある  
テレビも多く使われている。デ  
ジタル化が進んでも、旧メディア  
が一定の役割を保っていること  
が分かる。

## 構造②：【共存】

入れ替わりではなく、  
同時に存在。



「AかBか」ではなく  
「AもBも」。

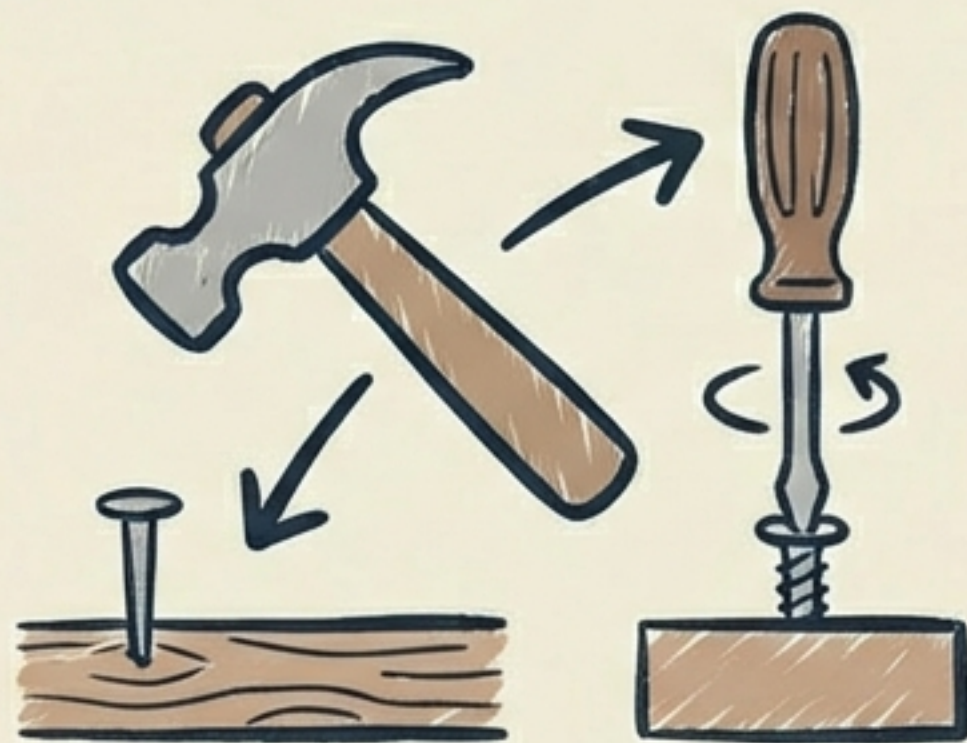
### 例文

新しいメディアの利用が増えているが、テレビなどの旧メディアも高いに割合を示している。このことから、新旧のメディアが共存していると読み取れる。

## 構造③：【役割分担】

Academic Editorial

使い道の違い。

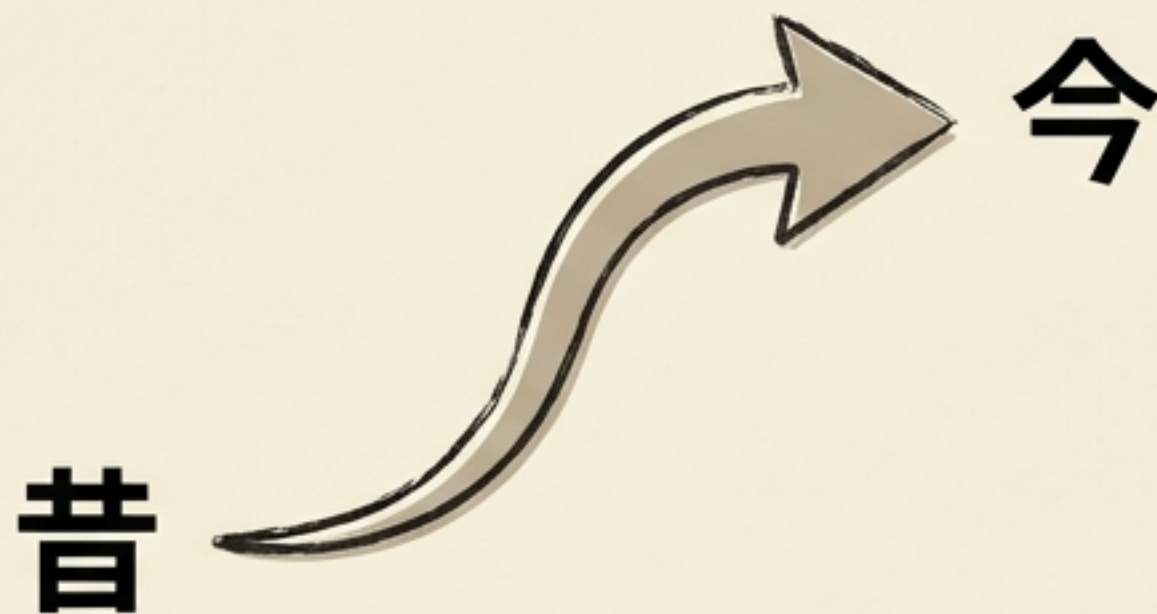


理由が書きやすく、  
説明力が高い。

例文

テレビは幅広い情報を知るために使われ、スマートフォンやパソコンは必要な情報を調べるために使われていると考えられる。

## 情報の得方の変化。

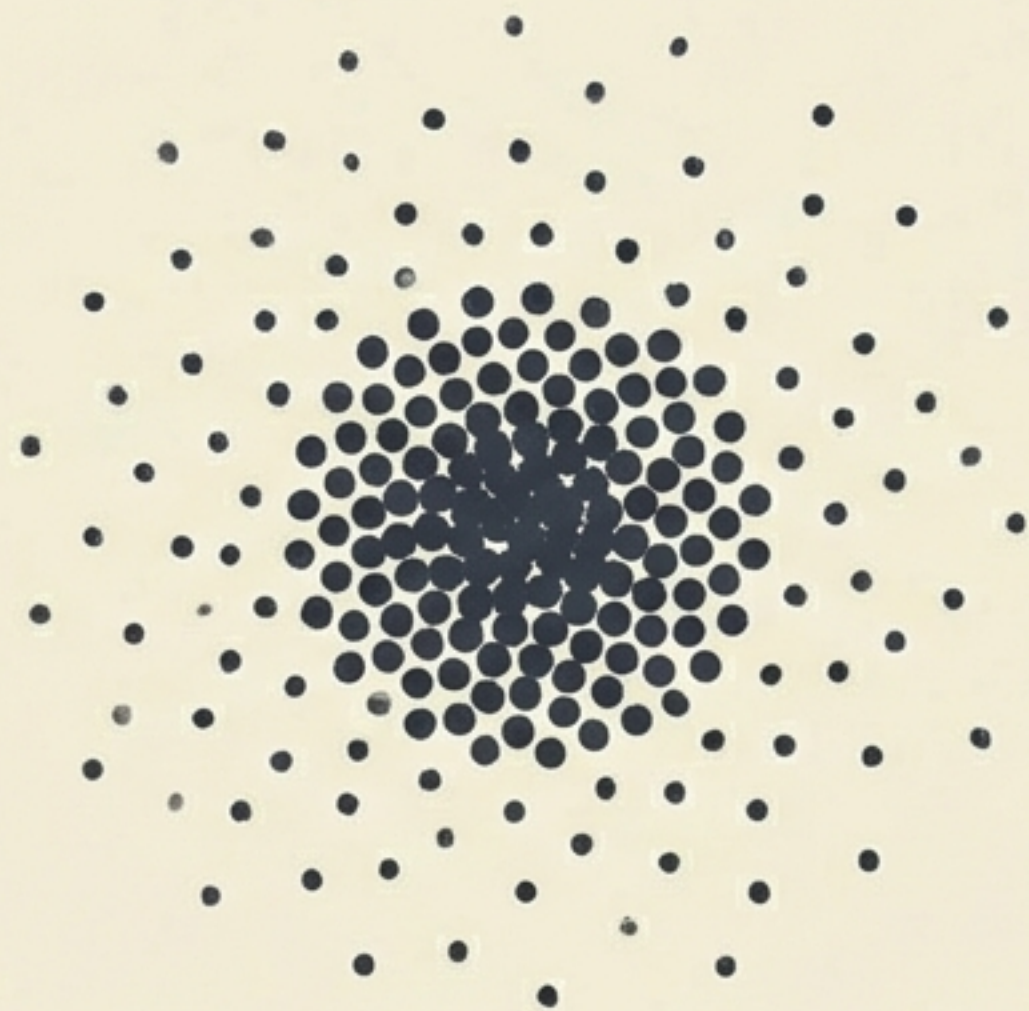


「昔→今」という時間の流れを含む。

## 例文

新聞や本の利用が少ない一方で、スマートフォンの利用が高いことから、情報の得方が変化していると分かる。

一部に集まり、同時に広がる。



全体を俯瞰できる上位構造。

## 例文

テレビやスマートフォンに  
利用が集中する一方で、  
他の情報源も一定数使わ  
れている。

ほとんど使われていないものに注目。



目立たない数字に意味を与える。

## 例文

スマートスピーカーやウェアラブル端末の利用は低く、新しい技術でも定着しないものがあと分かる。

## まとめ

王道で読む



迷ったら新旧グループ化



書く前に構造を命名

作文はセンスではない。  
**構造を言葉にできるかどうか。**  
それができた瞬間、  
**もう半分は書けている。**